

2022 年度 流通科学大学 卒業後アンケート  
調査結果報告書

2023 年 9 月  
流通科学大学

## 目次

I. 調査の概要 .....	2
II 調査結果の概要 .....	3
1. 全学共通 DP の有用性 .....	3
2. 全学共通 DP の修得度 .....	4
3. 正課内活動の有用性 .....	5
4. 正課外活動の有用性 .....	6
5. 学び直しの必要性 .....	7

# 1. 調査の概要

## 1. 調査の目的

本調査は、本学における内部質保証活動の一環として、本学の提供する教育が卒業生にどのような学習成果をもたらしたのかを、点検・評価するために実施する。

## 2. 調査対象

流通科学大学・全卒業生

## 3. 調査方法

オンライン調査（同窓会誌に Google Forms による回答フォームの URL の QR コードを掲示して回答を収集）

## 4. 調査期間

2022年12月下旬から2023年3月31日（金）

## 5. 調査項目

- ① 本学の現在のディプロマポリシーのうち「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」（全学共通 DP）の有用性及び習得度
- ② 大学時代の学修その他の経験の有用性
- ③ 学生時代に学んでおくべき、あるいは学び直したいと感じる分野

## 6. 回収状況

有効回答数 341件

卒業年による内訳は、表1のとおり

表1 回答者卒業年内訳

卒業年	回答数
1992	15
1993	9
1994	23
1995	24
1996	33
1997	15
1998	19
1999	17
2000	12
2001	14
2002	20
2003	15
2004	9
2005	9
2006	10
2007	11
2008	8
2009	7
2010	4
2011	4
2012	10
2013	4
2014	9
2015	2
2016	7
2017	2
2018	1
2019	6
2020	5
2021	3
2022	8
無回答	6

## II 調査結果の概要

### 1. 全学共通 DP の有用性

本学は、大学生活を通じて次のような資質や能力を備えた人材を育成することを目指しています。これらの資質や能力を身につけておくことは、卒業後の仕事や生活において、どの程度必要とされていると思いますか。

本学のディプロマポリシー（DP、「流通科学大学の卒業認定・学位授与の方針」）は、「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」（全学共通 DP）と、各学部、学科、コースの DP とに二分される。今回は、このうち全学共通 DP が卒業生の観点から適切に設定されているかを点検・評価するために、全学共通 DP の各項目に定める資質・能力が、卒業後の仕事や生活においてどの程度必要とされているかを問うた。その結果は表 2 のとおりである。

表 2 全学共通 DP の有用性

	とても必要とされている	ある程度必要とされている	あまり必要とされていない	まったく必要とされていない	無回答	必要とされている (A)+(B)	必要とされていない (C)+(D)
	(A)	(B)	(C)	(D)			
<b>「ネアカのびのびへこたれず」の精神をもった人材</b>							
夢や志を持ち、明るく元気でどこに出ても物怖じすることなく、誰とでもしっかり言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜くことができる。	73.6%	24.9%	0.3%	0.9%	0.3%	98.5%	1.2%
<b>知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材</b>							
1. 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる(情報収集力)	75.1%	22.6%	1.2%	0.9%	0.3%	97.7%	2.1%
2. 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる(情報分析力)	71.3%	26.1%	1.2%	1.2%	0.3%	97.4%	2.3%
3. 現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力)	74.2%	22.3%	2.1%	0.9%	0.6%	96.5%	2.9%
4. さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)	72.7%	24.9%	1.5%	0.6%	0.3%	97.7%	2.1%
<b>創造力(新しい視点と豊かな発想)を持った人材</b>							
新しい視点と豊かな発想によって、新しい価値を生み出すことができる	67.2%	29.3%	2.6%	0.9%	0.0%	96.5%	3.5%
<b>自主・自立の精神を持った人材</b>							
1. 物事に自ら進んで取り組むことができる	73.3%	24.9%	0.9%	0.9%	0.0%	98.2%	1.8%
2. 自ら目標を設定し、他に依存することなくそれを成し遂げることができる	54.0%	40.8%	3.8%	1.2%	0.3%	94.7%	5.0%
3. 自ら課題を設定し、それを解決に結びつけることができる	60.1%	34.0%	4.4%	1.2%	0.3%	94.1%	5.6%
<b>仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材</b>							
1. 他者に働きかけ、協力を取りつけることができる	69.8%	28.4%	0.9%	0.9%	0.0%	98.2%	1.8%
2. 他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めることができる	67.7%	28.2%	2.6%	0.6%	0.9%	95.9%	3.2%
3. 自分と周囲の人々や物事との関係・現状を適切に把握し、自らの役割を的確に果たすことができる	65.1%	29.9%	3.5%	1.5%	0.0%	95.0%	5.0%

ほぼすべての項目において、「とても必要とされている」と「ある程度必要とされている」とを加えた割合が 95%以上を占める結果となった。この割合が 95%を下回った「自ら目標を設定し、他に依存することなくそれを成し遂げることができる」、「自ら課題を設定し、それを解決に結びつけることができる」ですら、その割合

はそれぞれ 94.7%、94.1%に達している。また、「とても必要とされている」に限っても、「自ら目標を設定し、他に依存することなくそれを成し遂げることができる」を除き、いずれの項目も 60%を上回っている。

以上のような結果から、本学が全学共通 DP として掲げた資質・能力は、卒業後の仕事や生活における必要性という観点からは適切に設定されていると評価することができる。

## 2. 全学共通 DP の修得度

あなたは、これらの資質や能力が、流通科学大学での学生生活を通じてどの程度身についたと思いますか。

続いて、全学共通 DP の各項目に定める資質・能力が本学における学生生活を通じてどの程度身についたと卒業生が感じているのかを問うた。その結果は表 3 のとおりである。

表 3 全学共通 DP の修得度

	十分に身についた	ある程度身についた	あまり身につかなかった	まったく身につかなかった	無回答	身についた (A)+(B)	身につかなかった (C)+(D)
	(A)	(B)	(C)	(D)			
<b>「ネアカのびのびへこたれず」の精神をもった人材</b>							
夢や志を持ち、明るく元気でどこに出ても物怖じすることなく、誰とでもしっかり言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜くことができる。	23.8%	53.4%	19.4%	3.5%	0.0%	77.1%	22.9%
<b>知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材</b>							
1. 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる(情報収集力)	15.5%	54.0%	25.5%	4.4%	0.6%	69.5%	29.9%
2. 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる(情報分析力)	12.9%	50.4%	30.8%	5.3%	0.6%	63.3%	36.1%
3. 現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力)	12.6%	51.0%	29.6%	6.7%	0.0%	63.6%	36.4%
4. さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)	11.7%	47.2%	35.2%	5.6%	0.3%	58.9%	40.8%
<b>創造力(新しい視点と豊かな発想)を持った人材</b>							
新しい視点と豊かな発想によって、新しい価値を生み出すことができる	15.8%	44.3%	33.7%	6.2%	0.0%	60.1%	39.9%
<b>自主・自立の精神を持った人材</b>							
1. 物事に自ら進んで取り組むことができる	26.7%	52.8%	16.7%	3.5%	0.3%	79.5%	20.2%
2. 自ら目標を設定し、他に依存することなくそれを成し遂げることができる	15.2%	53.1%	26.4%	5.0%	0.3%	68.3%	31.4%
3. 自ら課題を設定し、それを解決に結びつけることができる	14.4%	51.9%	27.3%	5.9%	0.6%	66.3%	33.1%
<b>仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材</b>							
1. 他者に働きかけ、協力を取りつけることができる	21.7%	50.4%	22.6%	5.0%	0.3%	72.1%	27.6%
2. 他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めることができる	20.5%	56.0%	19.6%	3.5%	0.3%	76.5%	23.2%
3. 自分と周囲の人々や物事との関係・現状を適切に把握し、自らの役割を的確に果たすことができる	19.9%	56.6%	18.8%	4.4%	0.3%	76.5%	23.2%

ほぼすべての項目において、「十分に身についた」と「ある程度身についた」とを加えた割合が 60%を上回る結果となった。とくに、「「ネアカのびのびへこたれず」の精神をもった人材」及び「仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材」に係わる項目、並びに「物事に自ら進んで取り組むことができる」については、70%を上回っており、本学の校風、本学卒業生の気風を反映した結果と見ることができる。

「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」に区分される4項目は、全学共通DPに示される汎用的能力をリテラシーとコンピテンシーに二分した場合、リテラシーに区分されるものである。これら4項目については、前項で見た、卒業後の仕事や生活における必要性については、「とても必要とされている」という回答がいずれも70%を上回っていたのに対し、本項でみる習得度については、「十分身についた」と「ある程度身についた」を合わせても70%に達しない。このギャップをいかに埋めていくかが今後の課題である。

### 3. 正課内活動の有用性

大学時代に講義や実習・演習などの授業科目で学んだことは、現在の仕事や生活にどの程度役立っていると思いますか。

本学の教育課程の適切性を点検・評価し、改善を図るにあたっての一助とするため、科目の種別に応じて、そこで学んだことが、現在の仕事や生活にどの程度役立っているかを問うた。その結果は表4のとおりである。

表4 正課内活動の有用性 (全体)

	とても役立っている	ある程度役立っている	あまり役立っていない	まったく役立っていない	受講していない	無回答	役立っている	役立っていない	受講者の割合
	(A)	(B)	(C)	(D)			(A)+(B)	(C)+(D)	(A)+(B) +(C)+(D)
初年次教育科目(基礎演習、「自己発見とキャリア開発」など)	10.6%	40.5%	28.2%	7.0%	13.8%	0.0%	51.0%	35.2%	86.2%
一般教養科目	8.2%	41.6%	40.2%	8.2%	1.8%	0.0%	49.9%	48.4%	98.2%
専門分野の基礎的な知識に関する科目	17.0%	47.8%	26.4%	6.5%	2.1%	0.3%	64.8%	32.8%	97.7%
専門分野の実践的な知識に関する科目	18.2%	45.7%	27.3%	5.3%	3.2%	0.3%	63.9%	32.6%	96.5%
専門分野に関する専門的な理論を中心とした科目	12.0%	46.0%	32.6%	5.9%	2.6%	0.9%	58.1%	38.4%	96.5%
ゼミ(研究演習)	27.3%	41.9%	18.2%	7.6%	5.0%	0.0%	69.2%	25.8%	95.0%
卒業論文の執筆	9.7%	34.3%	29.0%	11.7%	14.7%	0.6%	44.0%	40.8%	84.8%
外国語科目	8.8%	25.8%	39.6%	21.4%	4.4%	0.0%	34.6%	61.0%	95.6%
情報処理に関する科目(パソコンやアプリケーション・ソフトの操作方法に関する科目を含む)	17.0%	36.1%	25.8%	9.7%	11.4%	0.0%	53.1%	35.5%	88.6%
文章表現に関する科目	8.2%	34.0%	27.3%	5.3%	24.9%	0.3%	42.2%	32.6%	74.8%
プレゼンテーション能力を育成する科目	14.1%	30.8%	17.0%	7.0%	30.8%	0.3%	44.9%	24.0%	68.9%
キャリア科目(単位取得できるインターンシップを含む)	17.6%	30.2%	13.8%	5.0%	32.8%	0.6%	47.8%	18.8%	66.6%
スポーツ演習や健康科学に関する科目	8.5%	28.7%	34.0%	15.0%	13.5%	0.3%	37.2%	49.0%	86.2%

年代によって教育課程の内容に違いがあることから、「受講していない」、「無回答」を除いた、受講経験のある卒業生に限って内訳を整理するとともに、「とても役立っている」と、これに「ある程度役立っている」を加えた「役立っている」とについて割合が多い順に順位を示すと表5のとおりである。

「とても役立っている」、「役立っている」のいずれについても、最も割合が高いのが「ゼミ(研究演習)」、次いで「キャリア科目(単位取得できるインターンシップを含む)」となっている。一般的に専門科目のほうが全学共通科目よりも「とても役立っている」、「役立っている」と回答した割合が高い。ただし、全学共通科目のうち「キャリア科目」、「情報処理に関する科目」は比較的順位は高い。また、「プレゼンテーション能力を育成する科目」は、全学共通科目にも専門科目にも含まれるが、総じて順位が高い。

表 5 正課内活動の有用性 (受講経験者内)

	とても役 立ってい る	順位	ある程度 役立って いる	あまり役 立ってい ない	まったく 役立って いない	役立って いる	順位
初年次教育科目 (基礎演習、「自己発見とキャリア開発」など)	12.2%	8	46.9%	32.7%	8.2%	59.2%	8
一般教養科目	8.4%	13	42.4%	40.9%	8.4%	50.7%	11
専門分野の基礎的な知識に関する科目	17.4%	6	48.9%	27.0%	6.6%	66.4%	3
専門分野の実践的な知識に関する科目	18.8%	5	47.4%	28.3%	5.5%	66.3%	4
専門分野に関する専門的な理論を中心とした科目	12.5%	7	47.7%	33.7%	6.1%	60.2%	6
ゼミ (研究演習)	28.7%	1	44.1%	19.1%	8.0%	72.8%	1
卒業論文の執筆	11.4%	9	40.5%	34.3%	13.8%	51.9%	10
外国語科目	9.2%	12	27.0%	41.4%	22.4%	36.2%	13
情報処理に関する科目 (パソコンやアプリケーション・ソフトの 操作方法に関する科目を含む)	19.2%	4	40.7%	29.1%	10.9%	59.9%	7
文章表現に関する科目	11.0%	10	45.5%	36.5%	7.1%	56.5%	9
プレゼンテーション能力を育成する科目	20.4%	3	44.7%	24.7%	10.2%	65.1%	5
キャリア科目 (単位取得できるインターンシップを含む)	26.4%	2	45.4%	20.7%	7.5%	71.8%	2
スポーツ演習や健康科学に関する科目	9.9%	11	33.3%	39.5%	17.3%	43.2%	12

4. 正課外活動の有用性

大学時代に授業以外で経験したことは、現在の仕事や生活にどの程度役立っていると思いますか。

授業以外の経験の種別に応じて、そこで経験したことが、現在の仕事や生活にどの程度役立っているかを問うた。その結果は表 6 のとおりである。

表 6 正課外活動の有用性 (全体)

	とても役 立ってい る	ある程度 役立って いる	あまり役 立ってい ない	まったく 役立って いない	経験して いない	無回答	役立って いる	役立って いない	経験者の 割合
	(A)	(B)	(C)	(D)			(A)+(B)	(C)+(D)	(A)+(B) +(C)+(D)
企業や地域などとの連携による商品開発企画への参加	12.6%	20.8%	5.6%	3.2%	57.5%	0.3%	33.4%	8.8%	42.2%
企業や地域などとの連携による商品開発以外の社会連携・社会 共創企画・活動への参加	11.4%	24.0%	6.7%	3.2%	54.3%	0.3%	35.5%	10.0%	45.5%
学園祭への参加 (教室発表、ステージ発表、模擬店出店など)	18.8%	34.6%	19.6%	5.0%	21.7%	0.3%	53.4%	24.6%	78.0%
クラブ・サークル活動	33.7%	27.9%	12.0%	4.4%	21.4%	0.6%	61.6%	16.4%	78.0%
ボランティア活動等学外での活動	11.1%	19.9%	5.6%	2.6%	59.8%	0.9%	31.1%	8.2%	39.3%
資格取得・検定試験受験に向けた学習	12.0%	26.4%	10.9%	5.6%	44.9%	0.3%	38.4%	16.4%	54.8%
海外留学	9.4%	7.6%	3.5%	0.6%	78.3%	0.6%	17.0%	4.1%	21.1%
アルバイト等の就業経験	41.1%	44.0%	8.5%	2.3%	3.8%	0.3%	85.0%	10.9%	95.9%
インターンシップへの参加	14.4%	18.5%	8.5%	2.9%	55.4%	0.3%	32.8%	11.4%	44.3%
就職活動	28.4%	44.3%	14.1%	6.7%	5.9%	0.6%	72.7%	20.8%	93.5%
教員との交流	27.6%	39.0%	17.0%	6.5%	9.4%	0.6%	66.6%	23.5%	90.0%
友人との交流	50.7%	31.4%	11.7%	3.5%	2.1%	0.6%	82.1%	15.2%	97.4%

「とても役立っている」と「ある程度役立っている」を選択した卒業生の割合が 8 割を超えているのは、「アルバイト等の就業経験」と「友人との交流」の 2 項目である。これらに対して、この割合は、「海外留学」では 2 割を下回っており、「ボランティア活動等学外での活動」、「インターンシップへの参加」など多くの項目で 3 割台にとどまっている。

しかしながら、これら「役立っている」との評価が低かった項目の多くは、経験者の割合が低い。そこで、経験者に限った評価によって集計し直すと表 7 のとおりである。

表 7 正課外活動の有用性（経験者内）

	経験者	その割合	とても役立っている	順位	ある程度役立っている	あまり役立っていない	まったく役立っていない	役立っている	順位
企業や地域などとの連携による商品開発企画への参加	144	42.2%	29.9%	8	49.3%	13.2%	7.6%	79.2%	4
企業や地域などとの連携による商品開発以外の社会連携・社会共創企画・活動への参加	155	45.5%	25.2%	10	52.9%	14.8%	7.1%	78.1%	7
学園祭への参加（教室発表、ステージ発表、模擬店出店など）	266	78.0%	24.1%	11	44.4%	25.2%	6.4%	68.4%	12
クラブ・サークル活動	266	78.0%	43.2%	3	35.7%	15.4%	5.6%	78.9%	6
ボランティア活動等学外での活動	134	39.3%	28.4%	9	50.7%	14.2%	6.7%	79.1%	5
資格取得・検定試験受験に向けた学習	187	54.8%	21.9%	12	48.1%	19.8%	10.2%	70.1%	11
海外留学	72	21.1%	44.4%	2	36.1%	16.7%	2.8%	80.6%	3
アルバイト等の就業経験	327	95.9%	42.8%	4	45.9%	8.9%	2.4%	88.7%	1
インターンシップへの参加	151	44.3%	32.5%	5	41.7%	19.2%	6.6%	74.2%	9
就職活動	319	93.5%	30.4%	7	47.3%	15.0%	7.2%	77.7%	8
教員との交流	307	90.0%	30.6%	6	43.3%	18.9%	7.2%	73.9%	10
友人との交流	332	97.4%	52.1%	1	32.2%	12.0%	3.6%	84.3%	2

「アルバイト等の就業経験」と「友人との交流」が高い割合を示していることは変わらないが、「海外留学」、「企業や地域などとの連携による商品開発企画への参加」、「ボランティア活動等学外での活動」といった項目が上位に並ぶ。

#### 5. 学び直しの必要性

あなたが今のお仕事や生活に照らして、「在学中にもっと学んでおけばよかった」、「機会があれば今からでも学び直したい」と感じるのは、どのような科目でしょうか（複数回答可）

いわゆるリスキングの対象として卒業生がどのような分野の知識やスキルを求めているのかを知るための一環として、おこなった質問である。予め用意した科目分野につき、複数回答可として「在学中にもっと学んでおけばよかった」、「機会があれば今からでも学び直したい」と感じるものの選択を求めた。

結果は、表 8 のとおりである。表 8 は、設問順に回答数を集計したものであるが、これを回答数の多い順に並べ替えると表 9 のとおりである。

「効果的なプレゼンテーションのスキルを身に付ける科目」、「データを収集、分析する方法を学ぶ科目」といった、日常業務に直接繋がるようなスキルを身につける科目に続いて「外国語によるコミュニケーションの能力を高める科目」が多く選ばれている。外国語科目については、「役立っている」とした評価が受講者の中でも 36%程度にとどまっている（表 5）こと、海外留学の経験が「役立っている」とする割合が 80%程度に及んでいること（表 7）などと対比すると興味深い結果といえよう。

専門分野の知識に関する科目 3 項目を含めて、大学時代の授業をそのままの形で学ぶことを想起させられる科目については、全般的に低い割合にとどまっている。

表 8 学び直しの必要性 (質問順)

データを収集、分析する方法を学ぶ科目	145	42.5%
Excel や Word などの汎用的なソフトを操作するスキルを高める科目	130	38.1%
さまざまな事柄を調査する方法を学ぶ科目	73	21.4%
文章によるコミュニケーションの能力を高める科目	87	25.5%
外国語によるコミュニケーションの能力を高める科目	144	42.2%
効果的なプレゼンテーションのスキルを身に付ける科目	151	44.3%
メディアリテラシーを高める科目※	57	16.7%
人生を通じたキャリアプランニングの考え方を学ぶ科目	94	27.6%
人生を通じたファイナンシャルプランニングの考え方を学ぶ科目	108	31.7%
起業や事業経営に関する知識を学ぶ科目	131	38.4%
組織運営に関する知識を学ぶ科目	114	33.4%
よりよい消費者となるための知識を学ぶ科目	30	8.8%
よりよい主権者となるための知識を学ぶ科目	34	10.0%
アイデアを産み出し、課題を解決する方法を学ぶ科目	103	30.2%
ロジカルシンキングやクリティカルシンキングなどの思考法を学ぶ科目	128	37.5%
広く自然科学分野の教養を身に付けるための科目	24	7.0%
広く社会科学分野の教養を身に付けるための科目	31	9.1%
広く人文科学分野の教養を身に付けるための科目	26	7.6%
広く時事問題を理解できるような教養を身に付けるための科目	40	11.7%
専門分野の基礎的な知識に関する科目	58	17.0%
専門分野の実践的な知識に関する科目	65	19.1%
専門分野の理論を体系的に学ぶ科目	46	13.5%

※「メディアリテラシー (インターネットやテレビ、新聞などのメディアから得られる情報を理解し、見極める能力) を高める科目」

表 9 学び直しの必要性 (多い順)

効果的なプレゼンテーションのスキルを身に付ける科目	151	44.3%
データを収集、分析する方法を学ぶ科目	145	42.5%
外国語によるコミュニケーションの能力を高める科目	144	42.2%
起業や事業経営に関する知識を学ぶ科目	131	38.4%
Excel や Word などの汎用的なソフトを操作するスキルを高める科目	130	38.1%
ロジカルシンキングやクリティカルシンキングなどの思考法を学ぶ科目	128	37.5%
組織運営に関する知識を学ぶ科目	114	33.4%
人生を通じたファイナンシャルプランニングの考え方を学ぶ科目	108	31.7%
アイデアを産み出し、課題を解決する方法を学ぶ科目	103	30.2%
人生を通じたキャリアプランニングの考え方を学ぶ科目	94	27.6%
文章によるコミュニケーションの能力を高める科目	87	25.5%
さまざまな事柄を調査する方法を学ぶ科目	73	21.4%
専門分野の実践的な知識に関する科目	65	19.1%
専門分野の基礎的な知識に関する科目	58	17.0%
メディアリテラシーを高める科目※	57	16.7%
専門分野の理論を体系的に学ぶ科目	46	13.5%
広く時事問題を理解できるような教養を身に付けるための科目	40	11.7%
よりよい主権者となるための知識を学ぶ科目	34	10.0%
広く社会科学分野の教養を身に付けるための科目	31	9.1%
よりよい消費者となるための知識を学ぶ科目	30	8.8%
広く人文科学分野の教養を身に付けるための科目	26	7.6%
広く自然科学分野の教養を身に付けるための科目	24	7.0%

以上